

研究結果報告書

韓国と日本の「近代遺産」への視座：アジアという共通基盤に基づく「アジア近代遺産」への試み

所属：韓神大学校 宗教文化学科

役職：非常勤講師

氏名：宋奉虎

本研究では、従来の一国史的の歴史観点に偏って論じられてきた日本と韓国それぞれの「近代遺産」を、両国の文化的・産業化価値という側面に注目して、アジアという共通基盤に基づく「アジア近代遺産」としての可能性を模索した。導出した結果は次の通りである。

1. 韓国の「近代遺産(近代文化遺産)」は、現時点で 686 個が指定されており、その中で、257 個が植民地朝鮮／日本帝国と関連した近代遺産であった。指定する際に重点をおいたのは「建築的な価値」「芸術性」「独立(抗日)運動」などである。日本とのかかわりの記述は少ないが、記述する場合には、殆ど独立運動の背景を言及するためであった。つまり、日本という他者不在の記述であった。

2. 日本の「近代遺産(近代化遺産、近代化産業遺産)」の場合、現時点で3,500個以上が指定されており、植民地朝鮮と関係ある記述は、それほど多くない。指定された理由としては、「近代化(産業化)」「建築的な側面」「地域活性化」などのポジティブな面であった。

1.と2.の結果に基づき両国が共有する「アジア近代遺産」としての可能性を模索してみたが、ここでは二つの事例を挙げる。韓国の近代遺産の「釜山臨時首都政府庁舎」の場合、近代遺産と指定されているものの、近代の話は一切何も触れてない。1960年に増築・改築されたが、建築的な側面のみ強調され、植民地時期の慶尚南道都庁としての姿は確認できない。しかし、今回の調査で、生計問題(行政中心地の変更による既得権喪失の問題)をめぐって都庁移転に反対する日本人・朝鮮人の共通の抵抗があった事実を確認した。一方、日本の近代化産業遺産の「軍艦島」については、世界遺産への指定過程で韓国側の反発があったことは周知の通りである。つまり、日本の「近代化」、「産業化」のみに重点を置き、朝鮮人の歴史(強制徴用)は認めようとしなかったのである。

この二つの事例から確認できたのは、一国史に偏って相互の歴史を認めようとしなない両国の視点が、現在の各国における近代遺産を構築しているという点である。しかし、「釜山臨時首都政府庁舎」や「軍艦島」の見方をアジアという共通基盤に立って変えると「ア

ジア近代遺産」としての可能性はあるだろう。

今後、こうしたアジアという共通基盤に立って「近代遺産」を調査、記録し、それを両国の近代遺産とするなら、「アジア近代遺産」として指定、登録される可能性は十分にあると思われる。

研究成果の公表について

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

宋奉虎、「日本と韓国の近代遺産の捉え直し」、韓国日本近代学会、2017年10月（日本愛媛大学）

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

諸点淑「日本と韓国の近代遺産の捉え直し」比較日本学、12月投稿予定

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）